
光経済研究所レポート

光経済研究所株式会社 東京都中央区日本橋人形町1-18-9 TEL 03(3669)2331(代)
証券投資顧問業登録関東財務局長第557号 日本証券投資顧問業協会会員011-00557号
2003年8月22日号
URL <http://hikarikeizai.co.jp/>

機関投資家の株式市場の本格参戦はいつか？

先週、米国で起きた大停電の経済への影響も限定的で、米国株は出直り始めています。日本株も週明けから機関投資家が市場に参加し始め、日経平均は出来高を伴いながら4回目のトライで引け値ベースで1万円台を回復してきました。しかし、市場の投資主体別動向を見ますと、依然として生保・銀行の売りに対して、外国人・個人投資家買いの構図は基本的には変わっていません。外国人投資家は、何時売り方に回るか知れず、日経平均が12000円に向かうためには、やはり生保や銀行が本格的な買い方に回ることが条件になりますが、生保や銀行が本格的な買い方に回らない理由として

- (1) 平成バブルのはじめ頃に言われたことは、「機関投資家は、一点のくもりのない空でないと買いに入ってこない」とのことで、経済指標がいくら好転しつつあっても依然として雇用環境が悪いなど、景気の先行きに対して不安があり、このような状況では株は買いづらいと思っている。
- (2) 株式の含み益が生じたとはいえ、海外でテロや突発的な事件が発生すれば、すぐに含み損が生じてしまう可能性も残しており、まだ、株式でのリスクは取りたくないと思っている。
- (3) デフレ懸念もまだ残っており、株式に向かうよりも今下がっている債券を買ったほうがリスクが少なく、リターンがあると思っている。

などが考えられますが、ただか日経平均が1万円に乗せたくらいでは、本格的な買いは入れないという感じです。しかし、外国人買いがまだしばらく続き、いままで買戻しを先送りしていた売り方があせり出して買い戻しに向かいますと、日経平均はすぐにでも12000円に行ってしまう可能性があります。また、株価がその水準に達しますと今度はアセット効果（資産の増加で消費が増加する）が出てきて、上記の3つの買わない理由は徐々に消えていくことになり、本格的な上昇相場が12000円からスタートしていく可能性があります。

株式需給の見通し

日本の経済指標の改善により、外国人投資家は以前よりも資金量を増やしています。また、個人の新規資金も継続して入り、目先の利食いや代行返上の売りをこなしながら上値を追う展開となっています。週明けからは、出遅れていた機関投資家も参加しはじめ、需給は若干買い優勢と見られます。

物色の流れ

今週は紙パルプ、鉄鋼、化学、繊維などの素材関連が市況の回復から買われました。この流れはしばらく続くものと見られます。また、代行返上売りで株価が低迷していた、花王、武田薬品、味の素などの出遅れ国内優良株も、今週末頃から大きく反発し始め、出遅れ株物色の流れも続いています。

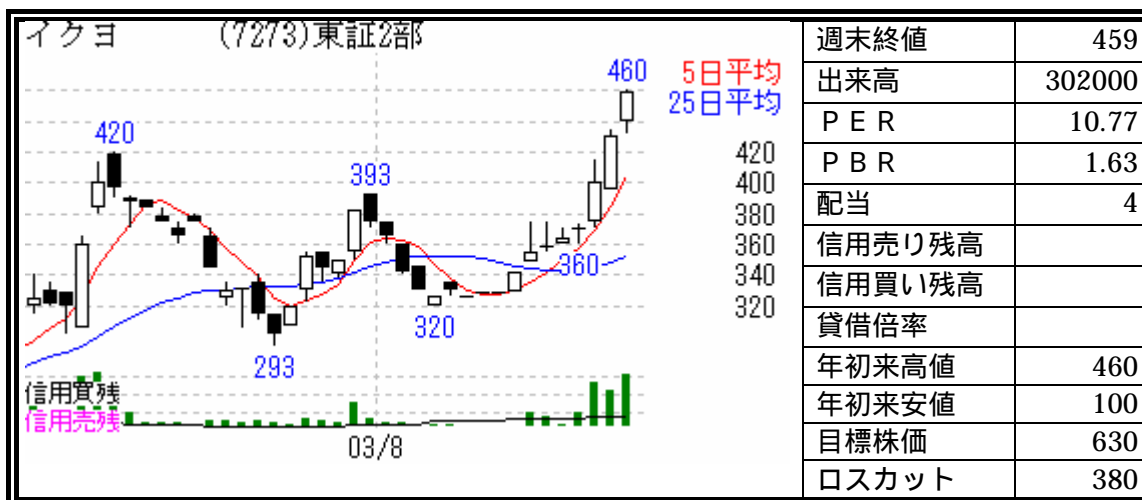
来週の見通しは？

今週に入って、出来高は15億株を超え、エネルギーは拡大しつつありますが、現在の水準は売り物も多く、来週は日経平均が10000円を固める展開が予想され、狭いレンジの中で上値を追う展開になるものと見られます。

このレポートは投資の判断となる情報の提供を目的としたものです。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願い致します。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

注目銘柄

7273 イクヨ



目先に好材料出現期待のタイミング銘柄として注目されたし！同社は三菱自動車向けが70%という比率の、自動車の合成樹脂及び外装部品を手掛けている低P E R企業。三菱自動車向けの売上比率が高いことから、かねてから他の大手自動車メーカーからの受注獲得に営業を強化しており、9月中間決算を前に新規得意先獲得の材料のほか、大材料発表の思惑があり！

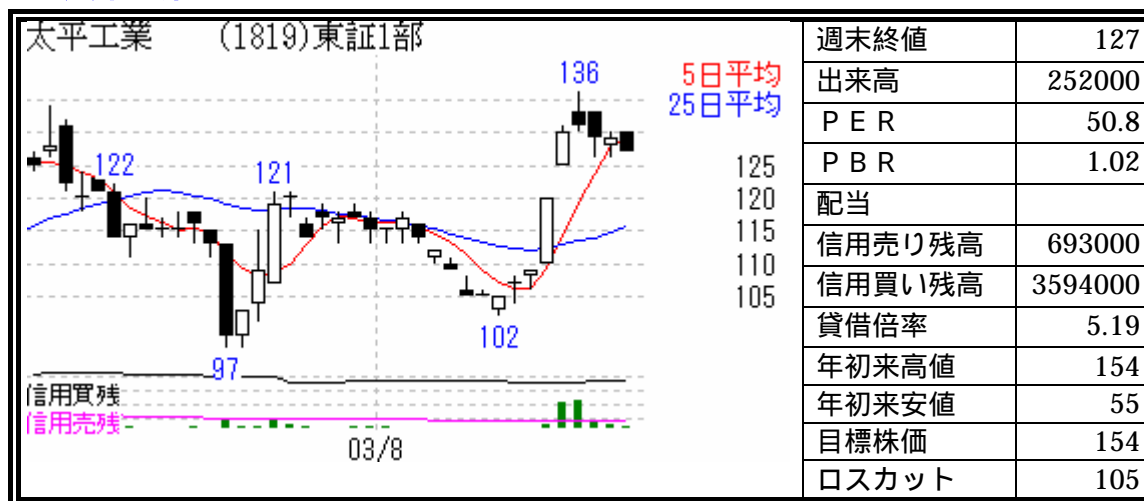
8868 アーバンコーポレイション



同社は異色のマンション開発・分譲会社。主力のマンション分譲では引渡し戸数3割増を目指す。東京地区のマンション販売も好調で、今来期ともに最高益を更新する見込み。株価は先の高値848円(7月3日)を更新後、利益確定売りから押し目を形成中。P E R 5倍台、1倍割れのP B Rに割高感はなく、時価から800円前後までの買い下がり戦略で臨みたいところ。中期的には4桁大台での活躍も期待できよう。

このレポートは投資の判断となる情報の提供を目的としたものです。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようにお願い致します。株式は値動きのある商品であるため、元本を保証するものではありません。

1819 太平工業



新日鉄を代表に外国人投資家は内需関連銘柄を物色しております。特にこの春先からは鉄鋼関連銘柄が軒並み高となっており 5401 新日鉄は年初来安値 127 円(4/28) 229 円(8/22)と大幅上昇。

筆頭株主は新日鉄、太平工業は新日鉄の生産設備メンテナンスを手掛けており、鉄鋼関連企業の業績が上向けば連れて同社の業績も上向く。鉄鋼関連の出遅れの銘柄で不採算部門から撤退、大規模なリストラによる人件費削減にて利益率が改善。中期経営計画の策定もありアナリストから評価も得はじめた。8/15 からマド開けて上昇しており従来の相場から転換期を迎えた。目先的には、120 円台後半から 25 日移動平均値 115 円の範囲での押し目は、積極的に狙える銘柄の一つ。